

事務事業実績測定調査

事務事業名称	旧田中家鋳物民俗資料館管理運営事業												
測定年度	2020(R2)年度				部	観光にぎわい部				課	文化財課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針		R2	R3		R4					
総合計画体系	基本目標		4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち										
	施策目標		19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち										
	実行計画名		19-1.歴史的資源等の保存と活用										

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	1984(S59)年度		年度	～	年度まで
根拠法令等	旧田中家鋳物民俗資料館条例、旧田中家鋳物民俗資料館条例施行規則、旧田中家鋳物民俗資料館条例使用料に関する規則				
関係補助金名称					サンセット
関係附属機関名称					

事業対象	メインターゲット	(資料館 展示) 地域を問わず全ての市民(歴史・文化財に興味関心がある人、又は潜在的にその要素のある人)
	サブターゲット	生涯学習・社会教育の機会を求めている人
	ターゲットが抱える課題	歴史や文化財への関心が薄く、資料館に行きたいという動機付けがされにくい。
	ターゲットが抱える課題	立地条件が悪い上に駐車場がないため、来館しづらい。 伝統工芸を学べる場が少なく、学べる場の情報も少ない。

めざす姿、あるべき姿(課題が解決した状態)	ターゲットが抱える課題
-----------------------	-------------

事業概要	所在地は、藤阪天神町5-1。 枚方上之町の田中家は古くから鋳物業を営み、江戸時代には真継家から独占的営業を許され、河内国惣官鋳物師として河内の鋳物師を統率し、梵鐘、鍋、釜などを鋳造していた。 本市は、田中氏から鋳物工場と主屋の寄贈を受け、藤阪天神町に移築復原し、昭和59年10月資料館として開館した。鋳物工場では鋳物の歴史、主屋では民俗文化財を展示している。 平成20年に、「鋳物づくり」等ができる工房をオープンした。体験工房では「鋳物づくり」、「彫金」や「七宝焼」などが体験できる主催講座を開催するほか、美術・工芸などの創作活動を行うサークル等に有償(一部減免あり)で工房及び付属設備の貸し出しを行っている。 平成29年度まで(公財)枚方市文化財研究調査会へ委託していた民俗文化財収集・整理作業については、平成29年度実績まで文化財保護管理事業としていたが、平成30年度に同会の解散に伴い事業統合し、同年度から当事業へ再編成した。
------	--

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム(活動効果)	アウトプット(活動結果)	インプット(活動)
	枚方の鋳物の歴史及び昔の暮らしについて理解を深める場所や機会として、広く周知される。	資料館に市民等が来館する。	資料館を運営し、歴史・文化財への関心を高めるイベントを実施する。

指標設定	指標説明	来館者アンケートで「満足」と回答したものの割合	来館者数	イベント等の実施回数(延べ)
	指標種類	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標
	指標数値	単位 %	単位 人	単位 回
	目標(見込み)	R2 R3 R4 R5	R2 R3 R4 R5	R2 R3 R4 R5
	実績	80 80 80 80	10,000 10,000 10,000 10,000	27 27 27 27
	達成度	110%	39%	56%
	分析	常設展・企画展ともに良い評価を得ることができた。	新型コロナウイルスにより、本来は307日開館のところ、190日のみの開館であったため、入館者数も減少した。	新型コロナウイルスにより、本来は307日開館のところ、190日のみの開館であったため、イベント数も減少した。

ロジックモデル②	アウトカム(活動効果)	アウトプット(活動結果)	インプット(活動)
枚方の鋳物の歴史及び昔の暮らしについて理解を深める場所や機会として、広く周知される。	講座に市民等が参加する。	「鋳物づくり」、「彫金」や「七宝焼」などが体験できる講座を開催する。	

指標設定②	指標説明	来館者アンケートで「満足」と回答したものの割合	参加者数(定員の80%)	講座等の実施回数(延べ)
	指標種類	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標
	指標数値	単位 %	単位 人	単位 人
	目標(見込み)	R2 R3 R4 R5	R2 R3 R4 R5	R2 R3 R4 R5
	実績	80 80 80 80	272 272 272 272	58 58 58 58
	達成度	110%	54%	45%
	分析	常設展・企画展ともに良い評価を得ることができた。	新型コロナウイルスにより、本来は307日開館のところ、190日のみの開館であり、また、併せて定員制限を実施したため、参加者数が減少した。	新型コロナウイルスにより、本来は307日開館のところ、190日のみの開館であったため、講座数も減少した。

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.63
任期付職員	0.95
会計年度任用職員	3.24
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	12,383	8,962	8,592		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	7,247	11,511	12,310		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	19,630	20,473	20,902		
	物件費計	12,325	10,120	10,205	13,067	78%	
	歳出計	31,955	30,593	31,107			
歳入	国庫支出金	0	0	0	0		
	府支出金	0	0	200	204		
	受益者負担(使用料・手数料)	1,414	1,355	600	170		
	市債	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	1,414		
	歳入計	1,414	1,355	800	1,788		
	一般財源	30,541	29,238	9,405	11,279		

5. 総括的分析

総括的分析 新型コロナウイルスの影響を受け年間の約40%の日数を休館することになったことから、来館者数は大幅に減少したが、講座・イベント等は中止ではなく、コロナ対策を実施した上で可能な限り延期とし、高い満足度が得られた。人員体制については、休館中、繁忙な他事業へ人員を柔軟に移すことにより、業務の平準化を図れた。

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	コロナ対策を実施した上で、来館者の増加・満足度の向上のため、魅力的な展示・イベントを実施するほか、出前講座等の館外での啓発事業や情報発信の工夫を図る。

事務事業実績測定調査

事務事業名称	市史編さん年報発行事務												
測定年度	2020(R2)年度				部	観光にぎわい部				課	文化財課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針		R2	R3		R4					
総合計画体系	基本目標		4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち										
	施策目標		19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち										
	実行計画名												

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業	
事業期間	2004(H16)年度		年度	~	年度まで	
根拠法令等	決裁					
関係補助金名称					サンセット	~
関係附属機関名称						
事業対象	メインターゲット	枚方市域、自分の住む地域、あるいは自分の家の歴史を知りたい、調べたい人。				
	サブターゲット	枚方の歴史に関する文章を作成したり、行政の過去の経過等を調べる必要の生じた庁内の部署・職員。				
	ターゲットが抱える課題	歴史資料を保存し、利用に対する要望に応える必要があるため。				
	ターゲットが抱える課題					
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	市民が自分の住む地域の歴史を知ること、郷土に対する愛着が醸成され、学生・研究者によって、本市の歴史研究の蓄積が進み、地域の歴史像がより豊かなものとなるとともに、本市の過去の写真や歴史に関する叙述がマスメディアや企業PR誌等に掲載され、市の魅力発信がなされている状態。					
事業概要	枚方市史年報をはじめ市史に関する刊行物の編集、歴史資料の収集・整理・保存を行い、また、市民の歴史に関する照会及び資料利用等の要望に応えることで、市民の郷土史に対する理解を深め、市民文化の向上を図ることを目的として、歴史資料の収集・整理・保存ならびに市民の歴史に関する照会及び資料利用等の要望に応えるとともに、枚方市史年報を発行する。					

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
	市民が自分の住む地域の歴史を知ること、郷土に対する愛着が醸成され、学生・研究者によって、本市の歴史研究の蓄積が進む。	枚方市域、自分の住む地域、あるいは自分の家の歴史を知りたい市民が年報を読む。				枚方市史年報等を刊行する。							
指標設定	アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
	指標説明	レファレンス件数				販売部数(市史等刊行物)				刊行部数			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	250	260	270	280	140	140	140	290	700	700	700	1,400
	実績	219				138				700			
達成度	88%				99%				100%				
分析	新型コロナウイルス感染症対策として緊急事態宣言発出により、市史資料室が所在する中央図書館が休館となり、来室者が減少したため。				中央図書館は閉館したが、本庁別館受付では販売していたので、概ね例年通りの販売部数となった。				例年通り枚方市史年報を刊行した。				

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.60
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	1.22
特別職非常勤	3.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	3,657	6,076	3,208		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	3,923	4,460	4,299		
		特別職非常勤	—	—	1,204		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	7,580	10,536	8,711		
	物件費計	1,050	2,325	668	816	82%	
	歳出計	8,630	12,861	9,379			
歳入	国庫支出金	0	0	0	0		
	府支出金	0	0	0	0		
	受益者負担(使用料・手数料)	134	380	0	0		
	市債	0	0	0	0		
	その他	0	0	105	142		
	歳入計	134	380	105	142		
一般財源		8,496	12,481	563	674		

5. 総括的分析

総括的分析	<p>市史編さん事務を行う市史資料室は文化財課の所管でありながら中央図書館内に所在しており、新型コロナウイルス感染防止により同図書館が休館したため、利用者は自由に来室できなくなりレファレンス件数は若干減少したが、事前に連絡を受けた場合は当室職員が図書館入口まで来室者を送迎して対応するなど、柔軟なサービス提供に取り組んだ。</p> <p>現在における指標達成度の数値は高いが、今後、業務の継続性を担保するため、管理運営の在り方を検討する必要がある。</p>
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	<p>地域社会の記憶装置としての役割を果たすためには、記録資料の収集・保存・活用といった従来の業務を継続する必要がある。今後も専門的なレファレンス機能を市民に広くアピールし、資料の利用を促進する。</p>

事務事業実績測定調査

事務事業名称	市指定文化財補助事業														
測定年度	2020(R2)年度				部	観光にぎわい部				課	文化財課				
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針		R2	R3		R4							
総合計画体系	基本目標		4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち												
	施策目標		19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち												
	実行計画名														
1. 事務事業の概要															
種類	市民サービス			特性	選択的事業				区分	一般事務事業					
事業期間	1996(H8)年度				年度	～			年度まで						
根拠法令等	枚方市文化財保護条例、枚方市補助金等交付規則(昭和40年枚方市規則第30号)														
関係補助金名称	文化財保護事業補助金							サンセット	2017(H29)年度		～			2019(R1)年度	
関係附属機関名称															
事業対象	メインターゲット		市指定文化財所有者												
	サブターゲット		市指定文化財の見学者等												
	ターゲットが抱える課題		自然災害等によって、突発的な市指定文化財の毀損が生じることがある。												
	ターゲットが抱える課題														
めざす姿、あるべき姿(課題が解決した状態)	「枚方市文化財保存活用基金」活用も視野に入れ、市指定文化財が市民共有の財産として後世に継承する一助となり、適切な保存がなされている状態														
事業概要	市民共有の財産である市指定文化財について、適切な保存管理を行うことを目的として、建造物の所有者に40,000円、建造物を除く有形文化財又は記念物の所有者に20,000円を交付することによって、市指定文化財の保存管理を支援する。														
2. ロジックモデル及び指標設定															
ロジックモデル	アウトカム(活動効果)				アウトプット(活動結果)				インプット(活動)						
	市指定文化財が市民共有の財産として後世に継承につながる。				市指定文化財について、所有者による適切な保存管理の支援が図られる。				文化財保護事業補助金を交付する。						
指標設定	アウトカム(活動効果)				アウトプット(活動結果)				インプット(活動)						
	翌年度に継承する市指定文化財件数(補助対象)				補助事業の実施件数				補助金交付申請数						
	単位 件				単位 件				単位 件						
	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標						
	指標種類		R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	
	指標数値		14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	
	実績		14				14				14				
達成度				100%				100%				100%			
分析				文化財保存事業補助金の交付対象の文化財について保存管理に問題がなく、引き続き文化財の継承が行われる状態である。				文化財保存事業補助金交付の申請を受ける際に、保存状況の聞き取り及び実物確認を行い、適切に保存されていることを確認した。				市指定文化財所有者(管理者)14件から枚方市文化財保存事業補助金交付の申請を受け、補助金を交付した。			

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.38
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の person 費については、人員配置をもとに平均 person 費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「person 費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員 person 費」「臨時職員 person 費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は person 費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	3,824	3,104	2,721	
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0	
		特別職非常勤	—	—	0	
		附属機関委員	—	—	0	
		人件費計	3,824	3,104	2,721	
	物件費計	965	340	340	340	100%
	歳出計	4,789	3,444	3,061		
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計	0	0	0	0	
一般財源		4,789	3,444	340	340	

5. 総括的分析

総括的分析	<ul style="list-style-type: none"> ・交付申請の手続きの際に補助対象となる全件の市指定文化財の保存状況の確認を行った。問題なく保存しており、文化財を後世に継承できる状況である。 ・市指定文化財の廃渚院観音寺鐘楼・梵鐘など3件の建造物と、意賀美神社の算額など建造物以外の有形文化財・民俗文化財及び記念物11件に交付した(340千円)。 ・事務的には所有者(管理者)との日程調整及び現地確認を短期間で行うため、事務の効率化を図る必要がある。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	市指定文化財の適切な保存管理が行われ、市の財産として継承されるように、引き続き補助金を交付していく。

事務事業実績測定調査

事務事業名称	特別史跡百済寺跡再整備事業												
測定年度	2020 (R2) 年度				部	観光にぎわい部				課	文化財課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針		R2	R3		R4					
総合計画体系	基本目標		4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち										
	施策目標		19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち										
	実行計画名		19-1.歴史的資源等の保存と活用										

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業
事業期間	2004 (H16) 年度		年度	~	年度まで
根拠法令等	文化財保護法、地方自治法、枚方市専門委員設置規則				
関係補助金名称				サンセット	~
関係附属機関名称	特別史跡百済寺跡再整備検討委員協議会				
事業対象	メインターゲット	百済寺跡や百済王氏、奈良時代の歴史に関心のある、史跡公園を利用する市民			
	サブターゲット	一般の史跡公園利用者や周辺に居住する市民、近隣市町の住民			
	ターゲットが抱える課題	整備から40年以上が経過し、老朽化・毀損が著しく、適切な遺構保存を図る必要がある			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	百済王氏の氏寺として、あるいは中央の官寺以外、地方の寺院としては異例ともいえる本格的伽藍配置をもつ古代寺院跡として広く認知されるとともに、当時の古代寺院の景観を体感できる歴史学習の場として広く市民等に利用される状態。				
事業概要	特別史跡百済寺跡は、昭和40年から42年の整備後、40年以上の歳月を経て各所の老朽化損壊変形が目立ち、表土の流失が著しい状態であることから、雨水流出抑制対策を含めた抜本的な遺構保存工事と合わせ、史跡公園として再整備を行う。再整備に当たっては、保存活用を図るための必要な調査及び資料の収集と史跡保全の指針を得るために専門委員で構成される特別史跡百済寺跡再整備検討委員協議会を設置し、百済寺跡の再整備に関する事項について調査審議する。 平成16年度に測量調査実施、平成17年度から平成25年度の9年間で発掘調査を行い、並行して整備準備を行う。また、再整備に向け、平成24年度から平成25年度までの間に基本計画の策定と基本設計を行う。平成26年度に実施設計を行い、平成27年度から再整備工事に着手している。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
	百済王氏の氏寺として、あるいは中央の官寺以外、地方の寺院としては異例ともいえる本格的伽藍配置をもつ古代寺院跡として広く認知される。	古代寺院の景観を体感できる歴史学習の場として広く市民等に利用される。				雨水流出抑制対策を含めた抜本的な遺構保存工事と合わせ、史跡公園として再整備を行う。						
指標説明	アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
	スマホアンケートにおいて百済寺跡が貴重な文化財であることを「知っている」と回答した人の割合				市民が利用可能な面積				当初予算額に対する補助金費消率 【算出式: 決算額/当初予算額×100】			
指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	単位	%			単位	%			単位	%		
指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	20	30	40	50	15,768	19,103	19,602	20,072	100	100	100
実績	61				15,768				100			
達成度	305%				100%				100%			
分析	非常に多くの市民が百済寺跡に関心を持っていることがわかった。				計画に基づいて再整備工事を執行し、市民に供用した。				交付決定を受けた補助金を計画に基づき執行した。			

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.82
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の person 費については、人員配置をもとに平均 person 費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「person 費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員 person 費」「臨時職員 person 費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は person 費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	4,453	4,890	6,385		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	97	0		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	4,453	4,987	6,385		
	物件費計	85,733	102,103	61,673	68,875	90%	
	歳出計	90,186	107,090	68,058			
歳入	国庫支出金	32,800	31,799	27,444	27,493		
	府支出金	0	0	0	0		
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0		
	市債	0	0	29,300	35,000		
	その他	0	0	0	0		
	歳入計	32,800	31,799	56,744	62,493		
	一般財源	57,386	75,291	4,929	6,382		

5. 総括的分析

総括的分析	平成27年度から再整備工事を着手。 令和2年度は、計画に基づき東南角の擁壁工事を実施し、緑化ブロックや遺構表示等のための各種舗装を一部行い、東北院の一部についても整備が完了した。 令和3年度は築地塀復元の実施設計委託、史跡東側の階段やスロープの設置等を予定している。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	地域住民の理解と協力を得ながら、令和5年度の完成を目指して再整備工事に取り組む。

事務事業実績測定調査

事務事業名称	文化財活用事業											
測定年度	2020(R2)年度			部	観光にぎわい部			課	文化財課			
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4				
総合計画体系	基本目標	4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち										
	施策目標	19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち										
	実行計画名	19-1.歴史的資源等の保存と活用										

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業
事業期間	不明	年度	~		年度まで
根拠法令等	文化財保護法、枚方市文化財保護条例				
関係補助金名称			サンセット		~

事業対象	メインターゲット	市民の共有財産である文化財の公開等、啓発普及事業への理解と共感をもつ市民
	サブターゲット	歴史や文化財に関心はあるが、啓発普及事業に触れる機会を知らない市民
	ターゲットが抱える課題	地域の歴史や文化財関連に関する情報を知る機会や接触する場が限定され少ない。
	ターゲットが抱える課題	さらに深い文化財関連の知識を得る機会等が少ない。

めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	多くの市民の理解と共感を得て、基金活用も含めた文化財の啓発普及により、郷土愛が育まれ次世代へ確実に継承される状態。
---------------------------	---

事業概要	市内に点在する歴史文化遺産について、地域性や時代等によるまとまりを踏まえ、3つの「歴史回廊」を設定し文化財の活用を進める。有効に保存・活用を図るため、主に次の事業を行う。 ○歴史講座、歴史ウォーク(市内文化財めぐり等)○文化財の展示(輝きプラザきらら展示ルーム等で、発掘調査の出土遺物等を展示)○発掘調査現地説明会○出土遺物復元作業見学会(土器に触れ合う機会)○特別史跡百済寺跡で創建時のAR映像の紹介○刊行物(文化財関係図書等)の発行など○出前講座○文化財説明板の建替・修繕○文化財防火デー(文化財を所蔵する社寺等で消防訓練を実施)
------	--

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)	インプット (活動)
	文化財保護に対して、市民の理解と共感が深まる。	関心のある市民が事業に参加する。	啓発普及事業を実施する。
指標説明	アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)	インプット (活動)
	受講者アンケートで「満足」と回答したものの割合	講座等の参加者数	講座等の実施件数(延べ)
指標種類	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標
	単位 %	単位 人	単位 件
指標数値	R2 R3 R4 R5	R2 R3 R4 R5	R2 R3 R4 R5
	目標(見込み) 実績		
達成度	91%	22%	43%
分析	会場の環境や公演時間の長さに課題があったが、概ね「満足」が得られた。	新型コロナによる開催中止や人数制限のため参加人数が大幅に減少した。	緊急事態宣言等、新型コロナによる開催中止に伴い実施件数が大幅に減少した。

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.97
任期付職員	0.30
会計年度任用職員	2.02
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	11,265	10,253	7,494		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	4,170	4,063	7,133		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	15,435	14,316	14,627		
	物件費計	1,509	1,608	2,909	1,898	153%	
	歳出計	16,944	15,924	17,536			
歳入	国庫支出金	0	0	0	0		
	府支出金	0	0	0	0		
	受益者負担(使用料・手数料)	324	226	181	0		
	市債	0	0	0	0		
	その他	0	0	962	1,443		
	歳入計	324	226	1,143	1,443		
一般財源		16,620	15,698	1,766	455		

5. 総括的分析

講座・イベント等、来場を伴う事業については、新型コロナの影響で開催中止、人数制限を余儀なくされたが、特別史跡百済寺跡に古代寺院の姿を再現できる透過アクリルパネルの設置や、官学協働によるAR技術の検討を行うとともに、市役所庁舎内の埋蔵文化財展示コーナーを刷新、「HIRATAKARA」クリアファイルの作成や百済寺跡・禁野本町遺跡パンフレットの作成等、コロナ禍の中でできる取り組みを進め文化財の活用を推進できた。
 当初予定していなかったアクリルパネルの設置・案内板の設置により、事業費の執行率は上がったが、これまでもニーズの高かった古代寺院の再現ができただけでなく、複数のメディアにも取り上げられ宣伝効果もあった。

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	講座・イベントの実施や説明板の設置等、従来の事業を行うほか、総合文化芸術センターのオープニングに合わせ、初出展の展示物を多く含む枚方の文化財展の開催、CGによるAR・VR及びIT活用の検討等、新たな事業にも取り組む。

事務事業実績測定調査

事務事業名称	文化財施設等維持管理事業										
測定年度	2020(R2)年度			部	観光にぎわい部			課	文化財課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4			
総合計画体系	基本目標	4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち									
	施策目標	19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち									
	実行計画名										

1. 事務事業の概要

種類	内部管理	特性	内部事務	区分	一般内部管理事務
事業期間	不明		年度	~	年度まで
根拠法令等	文化財保護法、枚方市文化財保護条例				
関係補助金名称				サンセット	~
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	収蔵施設の維持管理を行い文化財の保存管理を行う職員及び職場			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	文化財を保存管理する文化財収蔵施設の老朽化が進行しており、適切な改善を施す必要がある。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	多くの市民の理解と共感を得て、確実な文化財収蔵施設の維持管理を実施し、活用の機会拡大が図れるとともに、次世代へ確実に継承された状態。				
事業概要	貴重な文化財を保存管理するため、収蔵施設の維持管理を行う。蹉?東プレハブ文化財収蔵庫、元山田幼稚園施設文化財収蔵庫では、市内の発掘調査で出土した埋蔵文化財や市内で収集した民具などの文化財を収蔵している。山田分室では、市内発掘調査で出土した埋蔵文化財の復元等整理作業を行うと同時に一部を収蔵している。・蹉?東プレハブ文化財収蔵庫(翠香園町30、平成3年建築、延床面積129.6㎡)・元山田幼稚園施設文化財収蔵庫(甲斐田町1-27、昭和48年建築、延床面積408.06㎡)・山田分室(都丘町6-9、昭和60年建築、文化財課所管占有延床面積556.326㎡)				

2. ロジックモデル及び指標設定

		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
ロジックモデル						維持管理を通じて、収蔵される文化財の適正な保存管理がなされる。				収蔵施設に必要な維持管理を実施する。			
指標設定	指標説明					点検に係る当初予算額に対する決算額の割合【算出式:決算額/当初予算額×100】				全収蔵施設の維持管理のために実施した消防点検など必要な点検の延べ回数			
	指標種類	単位				単位 %				単位 回			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標(見込み)					100	100	100	100	8	8	8	8
	実績					47				8			
	達成度					153%				100%			
分析					当初計画のとおり点検を行ったが、契約差金のため実績値は低くなった。				消防点検のほか、大雨後の状況確認等適切に点検を行った。				

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.47
任期付職員	0.10
会計年度任用職員	0.20
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の person 費については、人員配置をもとに平均 person 費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「person 費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員 person 費」「臨時職員 person 費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は person 費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	4,666	4,038	4,018	
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	282	901	739	
		特別職非常勤	—	—	0	
		附属機関委員	—	—	0	
		人件費計	4,948	4,939	4,757	
	物件費計	7,670	17,818	33,371	34,338	97%
	歳出計	12,618	22,757	38,128		
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	21,200	
	その他	104	111	64	130	
	歳入計	104	111	64	21,330	
	一般財源	12,514	22,646	33,307	13,008	

5. 総括的分析

総括的分析	各施設の維持管理のため、警備委託、清掃委託、各種設備の保守点検委託を必要に応じて実施するとともに、日常的な建物の安全管理を実施した。 令和2年度は、山田分室空調設備更新工事、さだ東プレハブ文化財収蔵庫水道設備修繕を実施した。今後、実施設計を終えた山田分室の屋根・外壁更新工事の実施を控えるほか、老朽化の進む山田分室・さだ東プレハブ文化財収蔵庫の維持補修管理が必要である。併せて一般市民の供用に資する方策検討が求められる。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	引き続き、施設の計画的な改修を行うとともに、施設の日常管理を適切に実施する。併せて山田分室については、一般市民への活用について検討する。

事務事業実績測定調査

事務事業名称	文化財調査事業													
測定年度	2020(R2)年度				部	観光にぎわい部				課	文化財課			
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針		R2	R3		R4						
総合計画体系	基本目標		4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち											
	施策目標		19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち											
	実行計画名													
1. 事務事業の概要														
種類	市民サービス			特性	選択的事業				区分	一般事務事業				
事業期間	1984(S59)年度				年度	~			年度まで					
根拠法令等	文化財保護法、枚方市文化財保護条例													
関係補助金名称								サンセット	~					
関係附属機関名称														
事業対象	メインターゲット		文化財調査に係る市職員											
	サブターゲット		歴史文化遺産の所有者											
	ターゲットが抱える課題		市域に所在する歴史文化遺産の文化財的な価値について総合的に分からない。											
	ターゲットが抱える課題		所有する歴史文化遺産について、未調査のものについては文化財的な価値が分からず、保存管理の方針が分からない。											
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	調査によって把握された市域の歴史文化遺産の価値について、適切に市民に還元することができる状態。 歴史文化遺産の所有者は文化財的価値を把握し、適切に保存管理していくことができる状態。													
事業概要	歴史文化遺産を随時調査し、その年代、美術的・歴史的価値を判断し、文化財としての価値を把握する。													
2. ロジックモデル及び指標設定														
ロジックモデル	アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)					
	各文化財に応じた適切な保存管理手法により、後世への継承につながる。				市域の歴史文化遺産について、美術的・歴史的価値が把握される。				市域に所在する歴史文化遺産の調査を実施する。					
指標設定	指標説明		調査の実施により記録または報告に取りまとめた文化財の件数				調査日数				歴史文化遺産の調査件数			
	指標種類		増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値		R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	実績		4				10				4			
	達成度		200%				500%				200%			
	分析		各調査は文化財保護審議会委員である専門家のもとで調査を行ない記録及び報告を行った。				国登録有形文化財の登録に向けた建造物の調査は、調査内容が多岐にわたるため、多くの日数を必要とした。				国登録有形文化財の登録に向けた建造物2件の調査。市指定文化財への東京芸術大学の調査に伴う現場立合い調査。歴史文化遺産として保管している山口三治郎家の保管部材の状況及び活用に向けての調査を実施。			

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.63
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の person 費については、人員配置をもとに平均 person 費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「person 費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員 person 費」「臨時職員 person 費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は person 費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	2,624	1,895	4,993		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	2,624	1,895	4,993		
	物件費計	124	67	108	167	65%	
	歳出計	2,748	1,962	5,101			
歳入	国庫支出金	0	0	0	0		
	府支出金	0	0	0	0		
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0		
	市債	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	歳入計	0	0	0	0		
一般財源		2,748	1,962	108	167		

5. 総括的分析

総括的分析	<p>以下の調査を実施した(4件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国登録有形文化財の登録に向けた小野家住宅主屋、離れ、道具蔵の調査 ・国登録有形文化財の登録に向けた旧木南家住宅主屋、西藏、表蔵の調査 ・浄念寺不動明王立像の調査(東京芸術大学の調査に伴う現地立ち合い) ・山口三治郎家の保管部材の保管状況及び今後の活用についての調査 <p>歴史文化遺産の調査対象を検討した。(枚方宿などの旧家に伝わる美術工芸品の調査、伝統的な文化や暮らしの調査、伝統的な建造物の現状調査「枚方宿の町家、市域の伝統民家」)</p>
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	引き続き、国登録有形文化財の登録に向け調査を進める。また、歴史文化遺産の調査対象を具体的に検討し調査を実施していく。

事務事業実績測定調査

事務事業名称	文化財保護管理事業												
測定年度	2020 (R2) 年度				部	観光にぎわい部				課	文化財課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針		R2	R3		R4					
総合計画体系	基本目標		4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち										
	施策目標		19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち										
	実行計画名		19-1.歴史的資源等の保存と活用										

1. 事務事業の概要

種類	内部管理	特性	内部事務	区分	一般内部管理事務
事業期間	不明		年度	~	年度まで
根拠法令等	文化財保護法、枚方市文化財保護条例				
関係補助金名称					サンセット
関係附属機関名称					

事業対象	メインターゲット	市民の共有財産である文化財への理解と共感をもつ市民										
	サブターゲット											
	ターゲットが抱える課題	保存科学処理等計画的に行う文化財保護管理を、継続的に適正に行なう必要がある。										
	ターゲットが抱える課題	安全・快適に広く市民利用に供するため、除草や竹間伐など適正で効率的な遺跡の維持管理が必要										

めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	多くの市民の理解と共感を得て、文化財の保護管理が適切に実施された状態。											
------------------------	-------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業概要	枚方市域に残された文化財(埋蔵文化財・民俗文化財)を将来に伝えるべく、適切に保護・保存するとともに、市民に対して文化財保護への理解と郷土への愛着を育むことを目的に、主に次の活動を行う。 ○茄子作遺跡・藤田山遺跡・蹉跎東プレハブ文化財収蔵庫・伝王仁墓等の文化財用地の草刈り等による保護管理○特別史跡百済寺跡の再整備に伴う発掘調査で出土した金属製品等の遺物について、保存科学処理の実施。○特別史跡百済寺跡のバス専用駐車場の管理委託の実施○近年樹勢に衰えがみえつつある、府指定天然記念物枚方田中邸のむくについて、管理計画に基づく管理○楠葉台場跡の適正な保存管理(令和2年度に事業統合)。											
------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)					アウトプット (活動結果)	文化財が適正に保存管理され、後世に残される。				インプット (活動)	各文化財に応じた必要な保護管理を行う。			

指標設定	指標説明					アウトカム (活動効果)	保護管理によって、滅失・毀損せずに翌年度に継承した文化財の件数(遺跡数+天然記念物+民俗1件で計上)				アウトプット (活動結果)	草刈や保存科学処理、保護管理等を実施した延べ回数(対象:遺跡+天然記念物+民俗への燻蒸処理は原則1回)			
	指標種類	単位				単位				単位					
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標					
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5		
	目標 (見込み)					11	11	11	11	18	17	17	17		
	実績					11				18					
	達成度					100%				100%					
分析					保護管理を目標どおり実施したことにより、対象の文化財を滅失・毀損せずに翌年度に継承した。				目標どおり実施した。						

ロジックモデル②	アウトカム (活動効果)					アウトプット (活動結果)	楠葉台場跡を安全・快適に市民が利用できる。				インプット (活動)	楠葉台場跡の適正な保存管理を推進する。			

指標設定②	指標説明					アウトカム (活動効果)	(定点観測による)利用延べ人数				アウトプット (活動結果)	除草の回数/年			
	指標種類	単位				単位				単位					
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標					
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5		
	目標 (見込み)					200	220	240	260	6	6	6	6		
	実績					1,052				7					
	達成度					526%				117%					
分析					緊急事態宣言中に換気の良い野外へと人が流れる傾向を受け、目標を大きく上回る利用者数があった。				経費節減のために1回減数する予定であったが、市民の要望等を考慮し、平年並みの7回を実施した。						

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.98
任期付職員	0.05
会計年度任用職員	0.21
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人件費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人件費」「臨時職員人件費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人件費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	7,108	3,057	7,409		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	959		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	7,108	3,057	8,368		
	物件費計	16,432	8,878	26,581	32,665	81%	
歳出計		23,540	11,935	34,949			
歳入	国庫支出金	4,839	3,738	2,967	2,972		
	府支出金	110	61	800	816		
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0		
	市債	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	歳入計	4,949	3,799	3,767	3,788		
一般財源		18,591	8,136	22,814	28,877		

5. 総括的分析

総括的分析	文化財保存地の竹木及び楠葉台場跡の維持管理については、市民からの意見・要望への対応も行いながら、問題解決に努めた。令和2年度で終了する予定だった百済寺跡出土遺物の保存科学処理事業は、国庫補助金の査定による減額のため、次年度に延びることとなったが、今後も補助金を活用しながら事業を継続する。府天然記念物「枚方田中邸のむく」の樹勢回復事業では、令和2年度に足場を設置した高所作業が終了し、今後2箇年度をかけて、保全計画に基づく樹勢回復を推進する。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	文化財保存地及び楠葉台場跡については、適切かつ計画的な管理のため、公園管理や樹木管理等を行う部署からの専門的な助言を得ながら管理方法を検討・実施する。また、推進中の事業については、引き続き適切に実施していく。

事務事業実績測定調査

事務事業名称	文化財保護審議会運営事務												
測定年度	2020(R2)年度				部	観光にぎわい部				課	文化財課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針		R2	R3		R4					
総合計画体系	基本目標		4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち										
	施策目標		19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち										
	実行計画名												

1. 事務事業の概要

種類	内部管理	特性	庶務的事務				区分	庶務的内部管理事務			
事業期間	1994(H6)年度				年度	~		年度まで			
根拠法令等	枚方市文化財保護条例										
関係補助金名称							サンセット	~			
関係附属機関名称	文化財保護審議会										
事業対象	メインターゲット	市職員									
	サブターゲット										
	ターゲットが抱える課題	各分野の専門的な知見が得られず、文化財を適切に保存・活用することが困難となる。									
	ターゲットが抱える課題										
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	各分野の専門家で構成される文化財保護審議会により文化財の保存と活用に関する重要事項について調査・審議が行われ、その答申を受けて、文化財が適切に保存・活用されている状態。										
事業概要	枚方市文化財保護条例の規定に基づき、文化財の保存と活用に関する重要事項について調査・審議するため、市の附属機関として、文化財保護審議会を設置している。										

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
指標設定	指標説明												
	指標種類	単位				単位				単位			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
		目標 (見込み)											
	実績												
	達成度												
	分析												

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.29
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	7.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	2,942	1,086	2,189	
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	76	76	0	
		特別職非常勤	—	—	0	
		附属機関委員	—	—	67	
		人件費計	3,018	1,162	2,256	
	物件費計	0	8	18	11	164%
	歳出計	3,018	1,170	2,274		
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計	0	0	0	0	
一般財源		3,018	1,170	18	11	

5. 総括的分析

総括的分析	第14期枚方市文化財保護審議会委員9人を委嘱し(任期:令和2年9月1日～令和4年8月31日)、文化財の保存と活用について審議した。令和2年4月の機構改革で市長部局へ移行したことから、特に活用に関する活発な審議をするため、委員を8人から9人にし、専門的見地から多くの意見をいただくことができた。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	審議会でもいただいた意見に基づき事業内容を検討し、今後の文化財活用の取り組みに反映していく。

事務事業実績測定調査

事務事業名称	埋蔵文化財発掘調査事業												
測定年度	2020 (R2) 年度				部	観光にぎわい部				課	文化財課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針		R2	R3		R4					
総合計画体系	基本目標		4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち										
	施策目標		19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち										
	実行計画名												

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	非選択的事業		区分	非選択的事務事業		
事業期間	1971 (S46) 年度		年度	~	年度まで			
根拠法令等	文化財保護法、枚方市文化財保護条例							
関係補助金名称						サンセット	~	
関係附属機関名称								
事業対象	メインターゲット	埋蔵文化財調査の原因となる工事等を実施する事業者等(施主である市民も含む)						
	サブターゲット	地域を問わず全ての市民						
	ターゲットが抱える課題	天候等の事情で発掘調査の施行に遅れが生じると、土木工事の工期の遅れや負担費用の増加が生じる場合があり、また、そのような場合があることの周知が必要である。						
	ターゲットが抱える課題							
めざす姿、あるべき姿(課題が解決した状態)	調査対象となる事業主等の遺跡保護に対する理解を得ながら、文化財保護法等の趣旨に基づき、手続きや発掘調査等を実施し、埋蔵文化財の確実な保護を図るとともに、その成果をまとめ、公表・公開され、活用が行われている状態。							
事業概要	文化財保護法に基づき、埋蔵文化財の記録保存及び埋蔵文化財の周知の徹底を図るために、必要な措置の実施に努めている。埋蔵文化財包蔵地内での土木工事等は、届出が義務付けられているため、事業者には「埋蔵文化財の発掘届出・通知書」の提出を求め、それまでの調査結果に基づき調査方法を決定し、事業者の協力を得ながら、必要に応じて試掘確認調査及び本発掘調査を実施し、その成果を概報・年報・報告書等で公表している。埋蔵文化財発掘調査及び埋蔵文化財発掘調査遺物復元整理作業については、平成29年度までは市直営及び(公財)枚方市文化財研究調査会への委託で実施していたが、同会の解散により、平成30年度から事業統合し、全て市直営で埋蔵文化財発掘調査事業として実施することとなった。今後は、埋蔵文化財発掘調査の計画的で効率的な体制を構築し埋蔵文化財保護を推進するとともに、調査成果の公開の機会を増やすことで活用の充実を図る。							

2. ロジックモデル及び指標設定

		アウトカム(活動効果)				アウトプット(活動結果)				インプット(活動)			
ロジックモデル						埋蔵文化財が発掘され、その結果を取りまとめる。				必要となる手続きや、発掘確認調査及び本発掘調査を実施する。			
指標説明						成果を取りまとめ、公表・公開した報告件数				発掘調査実施日数(延べ)			
指標設定	指標種類	単位				単位 件				単位 日			
	指標数値	R2 R3 R4 R5				増加することが良いとされる指標				減少することが良いとされる指標			
	目標(見込み)					R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	実績					70	70	70	70	300	300	300	300
	達成度					159%				74%			
分析						令和元年度の発掘調査件数が多かったため、報告件数が増加した(発掘した翌年度に報告)。				開発予定区域で、工事立会調査や発掘調査を必要とする件数が想定を超えたため。			

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	1.53
任期付職員	0.60
会計年度任用職員	4.75
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	18,395	15,642	14,594	
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	14,557	15,506	14,605	
		特別職非常勤	—	—	0	
		附属機関委員	—	—	0	
		人件費計	32,952	31,148	29,199	
	物件費計	10,840	10,363	17,917	16,837	106%
	歳出計	43,792	41,511	47,116		
歳入	国庫支出金	997	1,312	7,848	7,342	
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計	997	1,312	7,848	7,342	
一般財源		42,795	40,199	10,069	9,495	

5. 総括的分析

総括的分析
 ・発掘届出及び通知書を受理し、大阪府へ進達した件数は、中核市では前橋市、高崎市に次いで全国で3番目に多い。令和2年度は、800件の届出及び通知書を受理し、進達した。
 ・令和2年度の現地にて調査・立会を行った件数 331件、内訳:試掘・発掘調査40件、工事立会 291件
 ・埋蔵文化財の調査については、「枚方市埋蔵文化財発掘調査年報」を刊行し、それぞれの成果を公表した。
 ・事業費の執行率が100%を超えているのは、当初で予定していなかった大規模な確認調査を実施したからであるが、国庫補助金を増額要求し、一般会計からの負担を押さえた。大規模な調査は、予算措置できるよう、計画段階から早めに協議していく必要がある。

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	引き続き、適切な事務執行、調査・立会等に努めるとともに、試掘・発掘調査及び工事立会の確実な履行を求めため、連絡体制等の確立に努める。また、調査の成果を資料整備に反映させていく。 突発的な発掘調査に備えるために、効率的な業務体制を目指す。

事務事業実績測定調査

事務事業名称	枚方宿鍵屋資料館維持管理事業														
測定年度	2020(R2)年度				部	観光にぎわい部				課	文化財課				
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針		R2	R3		R4							
総合計画体系	基本目標		4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち												
	施策目標		19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち												
	実行計画名														
1. 事務事業の概要															
種類	内部管理			特性			内部事務			区分		一般内部管理事務			
事業期間	2001(H13)年度				年度	~							年度まで		
根拠法令等	地方自治法、枚方市公の施設における指定管理者の指定の手続等に関する条例														
関係補助金名称									サンセット		~				
関係附属機関名称															
事業対象	メインターゲット		(資料館 展示) 歴史・文化財に興味関心がある人、又は潜在的にその要素のある人												
	サブターゲット														
	ターゲットが抱える課題		枚方宿、京街道や淀川舟運の歴史について関心が薄く、場所も分かりづらいため来館しづらい。												
	ターゲットが抱える課題		駐車場の確保												
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	歴史・文化財に興味関心がある人、又は潜在的にその要素のある人が、枚方宿、京街道や淀川舟運の歴史について理解を深めることのできる場所や機会として、広く周知された上、適切に提供されている。														
事業概要	枚方宿、京街道や淀川舟運の歴史について広く啓発普及することにより、枚方の歴史に対する認識を深めるとともに、郷土愛を育てることを目的として、枚方宿鍵屋資料館指定管理業務として、①資料館の調査研究展示業務、②資料館の利用その他入場制限に関する業務、③利用料金に関する業務、④施設及び設備の維持管理に関する業務、⑤PR・企画業務、⑥その他業務を実施する。														
2. ロジックモデル及び指標設定															
ロジックモデル	アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)						
					枚方宿鍵屋資料館が適性に維持管理される。				必要な施設保全や保守点検を行う。						
指標設定	アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)						
	指標説明		単位		単位		%		単位		件				
	指標種類		増加することが良いとされる指標		増加することが良いとされる指標		増加することが良いとされる指標		増加することが良いとされる指標		増加することが良いとされる指標				
	指標数値		R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	
	目標 (見込み)						100	100	100	100	1	3	1	1	
	実績						48				7				
達成度						48%				700%					
分析						金額の大きな修繕が発生しなかったため、想定よりも決算額が少なくなった。				小規模な修繕を想定よりも多く実施したため、目標よりも指標数値が増えた。					

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.59
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人件費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人件費」「臨時職員人件費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人件費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	3,578	7,164	4,396		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	3,578	7,164	4,396		
	物件費計	21,070	20,342	23,204	24,330	95%	
歳出計		24,648	27,506	27,600			
歳入	国庫支出金	0	0	0	0		
	府支出金	0	0	0	0		
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0		
	市債	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	歳入計	0	0	0	0		
一般財源		24,648	27,506	23,204	24,330		

5. 総括的分析

総括的分析	新型コロナウイルスによる影響については、休館等により講演会やワークショップ等のイベント開催中止が相次いだが、可能な範囲で事業を行った。また、感染拡大防止のための取組として、国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)協力のもと、非接触型展示案内を導入した。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	講座・イベント等の事業を行うほか、令和3年度は、市有建築物保全計画の対象となる防災設備更新工事を実施する予定である。

事務事業実績測定調査

事務事業名称	文化財課運営事務												
測定年度	2020(R2)年度			部	観光にぎわい部				課	文化財課			
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4					
総合計画体系	基本目標		9.施策体系外										
	施策目標		99.施策体系外										
	実行計画名												

1. 事務事業の概要

種類	内部管理	特性	庶務的事務	区分	庶務的内部管理事務							
事業期間	不明			年度	～年度まで							
根拠法令等	地方教育行政の組織及び運営に関する法律、枚方市教育委員会事務局事務分掌規則											
関係補助金名称	サンセット											～
関係附属機関名称												
事業対象	メインターゲット	課内職員										
	サブターゲット											
	ターゲットが抱える課題	年々事務量が増加しており、事務処理の効率化・平準化を進め、またやるべき業務の選別・整理が必要。										
	ターゲットが抱える課題	職員のモチベーションの維持										
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	課の事務事業が支障なく執り行われる環境の整備、人員体制、予算の確保等の実現											
事業概要	課の運営事務											

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
指標設定	指標説明												
	指標種類	単位				単位				単位			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
		目標 (見込み)											
	実績												
	達成度												
	分析												

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	2.11
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.24
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人件費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人件費」「臨時職員人件費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人件費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	24,087	14,922	16,054		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	1,424	960	973		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	25,511	15,882	17,027		
	物件費計	32,105	3,775	2,305	2,056	112%	
	歳出計	57,616	19,657	19,332			
歳入	国庫支出金	0	0	0	0		
	府支出金	0	0	0	0		
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0		
	市債	0	0	0	0		
	その他	39,060	1,053	0	10		
	歳入計	39,060	1,053	0	10		
一般財源		18,556	18,604	2,305	2,046		

5. 総括的分析

総括的分析	<p>事業費の予算執行率が100%を超えたのは、機構改革により、他課に配当されていた予算で移行されたものがあったからである。事務所移転により、事務所や倉庫のスペースが大幅に減少したことで、書類や物品の整理が進んだだけでなく、新たな購入に関しても、これまで以上に厳しく精査するようになった。</p> <p>業務で使用するOA機器やソフトウェアは、毎年の値上げにより経費を圧迫しているが、必要不可欠なものであるため、使用効率を落とさずに経費節減できる方法を検討する必要がある。</p>
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	引き続き、文化財課所管事務の適切な執行に取り組む。